

「十三」

予測困難な事態への対応

教頭 狩野 美智代

今年の運動会は、4年ぶりに来賓の方々をお迎えし、保護者の皆様や地域の皆様にもコロナ前と同様に参観していただくことができました。来賓の方からの、生徒が競技をがんばっている姿や係の仕事に取り組む姿を褒めていただく言葉を聞くと、学校の活動を地域の皆様に見ていただく機会の必要性を改めて感じました。

さて、コロナ禍において「予測困難な事態」という言葉を耳にする機会がよくありました。ようやく社会でのコロナ感染症への対応が落ち着いてきたことで、学校の教育活動においても制限が緩和され従来どおりの活動を行うことができると思っていました。しかし、この夏「熱中症」という新たな「予測困難な事態」が起きました。気温が34度を超える日が数週間続き、体育の授業や部活動、運動会の練習等、生徒の活動にコロナ禍とは異なる制限が必要となりました。部活動では、暑さ指数を確認した上で、時間を短縮したり内容を軽減したりと、本来であれば充実した練習を行うことができる時期に十分な活動ができませんでした。また、運動会の練習では、グラウンドで行う応援練習を体育館や教室で行ったため、生徒にとって不都合なことがあったと思います。運動会自体においても、日程を分散したり時間を短縮したりと、熱中症から生徒を守ることを最優先に考えた開催となりました。そんな中、生徒たちは「予測困難な事態」を理解し、制限の中での最善を考え活動していたと思います。想定外の事態は、工夫したり考えたりするよい機会になります。そして、うまくいかないことに向き合い、乗り越えようと努力することが成長につながります。この一連の活動に、自分一人ではなく仲間とともに力を合わせて取り組むことができる場が学校です。そして、この経験が、困難な状況になったとしても「がんばってみよう」という前向きな気持ちに導く心の力を育み、将来、社会で生きていくための礎を築きます。今後も、生徒会活動や学校行事等を生徒の成長のための大切な機会として捉え、教職員が一丸となって一層充実した活動になるよう努めていきます。

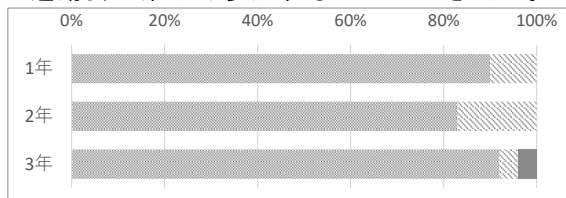


◆ ◆ ◆ 運動会を振り返って ◆ ◆ ◆

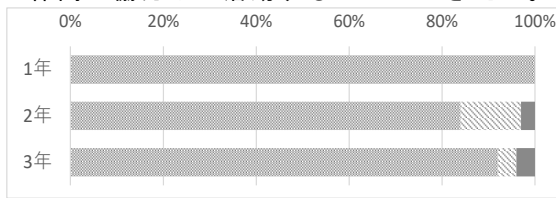
運動会を終えた生徒のアンケート結果から、運動会を振り返ります。

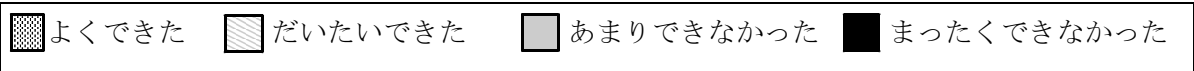
よくできた
 だいたいできた
 あまりできなかった
 まったくできなかった

1 運動会に楽しく参加することができたか。

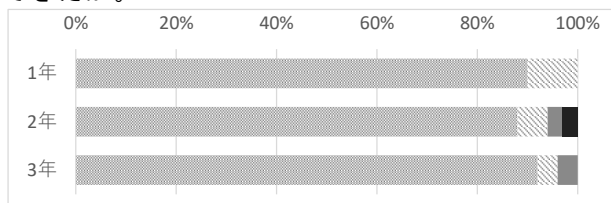


2 仲間と協力して活動することができたか。

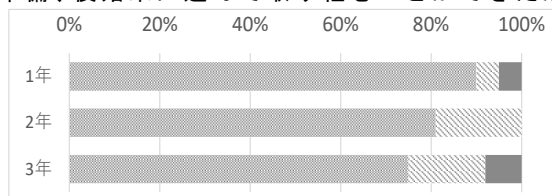




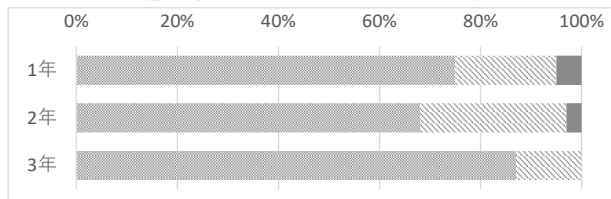
3 全力で競技種目や係活動に取り組むことができたか。



4 自分の役割を意識して、運動会前の練習や当日の準備、後始末に進んで取り組むことができたか。



5 運動会を通して、友達のよいところや頑張っているところを発見することができたか。



応援合戦

☆生徒の感想より

〔1年生〕

初めて中学校の運動会の練習をして、係も難しくなって応援も覚えることが多くとてもレベルが高いんだなと実感した。しかし、2・3年生が教えてくれて全部できるようになり、とてもうれしかった。

〔2年生〕

今年は後輩であり先輩であり、先輩である立場として、人に指示を出したり、人をサポートしたりすることができました。来年は最高学年として人をはげましたり、士気を上げたりしていくことが大切になってくると思うので頑張ります。

〔3年生〕

個人競技や団で力を合わせて行う団体競技でも一人一人が輝く瞬間がみれてうれしかったです。応援の練習も楽しく厳しくできてよい思い出となりました。ありがとうございました。

☆運動会スナップ写真



選手宣誓



100m走



ぐるぐるサーティーン（1年）



ドキドキ★共同作業！（2年）



グラグラ危機一髪！（3年）



綱引き

※ 十三中学校HPにも写真が掲載されています。

